

# 労務者疫世 才三十三号 目次

一通の速達から——比呂志さん追悼…………… 2

寄場 働く仲間の新聞——金ヶ崎新聞社…………… 7

就労するまでの話——現場選で初体験とセンターへの初登場の日…………… 20

ぶらり瓢箪——ゆしの住む町・鶴見橋商店街…………… 27

夏祭り会場内を彷徨っていた、またこれからもするであろう…………… 31

不当侵入者 について  
あやしげな男達 について

読者の声…………… 56  
マンガ…………… 16・17・18・19・26・30・裏表紙

飯場物語六——秀才伝説——日野善太郎…………… 36

## 廊行進曲

花の飛田は 色の里  
軒辺をかざる 恋の灯台  
なんぞ飛田が 忘らりよか  
好みな あの妓が もう待つ時分  
逢うば 嬉しき 二人仲  
なんぞ あの妓が 忘らりよか

(以下略)

## ルンパン行進曲

昔なつかし 心齋橋の  
小僧時作を 誰か知る  
モヒモヒ狂ふて ラジオを笑ふて  
明けりや 保養の 料根盤  
恋のセキセイ あの花細で  
今日も可愛い フツキ合ひ  
懐中電燈に 映ったものは  
ゆれた硝子の 薬瓶(肩こり)  
狭い保養室 一人ぢや広  
浮世小路の 花び住ひ  
あなた今宮 私は隔離  
こんな病気にせよ ままならぬ  
御飯たてよか お湯のみましょか  
川つそ お粥を 済ませよか  
俄か仕立の ルンパン宿も  
川つかコンクリの 家になろ

廊行進曲——昭和三年大阪種本書店発行の歌本にあり  
「道頓堀行進曲」のメロディであつたのか?

ルンパン行進曲——昭和四年、東京行進曲の発表  
以後、多くの音楽が、昭和十年代初めころまで  
につくられた。大阪ではトヤ街のルンパン

ン行進曲が、今言、釜ヶ崎の御所街に流れた。  
毎日新聞社発行「西沢英著  
「推学 歌謡 昭和史」より